

令和元年度 東北地区高等学校PTA連合会 進路対策委員会活動報告

活動報告書をお届けします [委員長挨拶]

東北地区高等学校PTA連合会 進路対策委員長
全国高等学校PTA連合会 進路対策委員
青森県立青森西高等学校 PTA会長
中村 美津緒



保護者の皆様におかれましては日頃のPTA活動にご尽力のことと思います。さて、子どもを持つ親であれば子どもの進路は最大の関心事の一つではないでしょうか。進学でも就職でも子ども達の希望が叶えられるようにと願い、親として最大限の手助けをしたいと思うのはいづこの親も同じかと思えます。

今日、私達の子どものを取り巻く社会状況はグローバル化の進展やIT技術の進化等に伴い、働き方改革や外国人労働者の受け入れ問題、大学入試改革などめまぐるしく変化しています。一方では地方の過疎化、都市部での待機児童の問題、高齢化社会への対応など解決しなければならない直近の問題もごぞいます。将来が見通せない社会状況の中で私達は子どもの進路についてどのようなアドバイスを与えればいいのか、私達保護者自身が今まで以上に積極的に学ばなければならないのではないのでしょうか。

これまでも東北は一つという合言葉で東北地区高P連はお互いに情報交換をしながら切磋琢磨を続けてきました。進路対策委員会も各県の取り組みを参考に、より活発なPTA活動になりますよう今年一年活動してまいりました。本委員会では高校生のキャリア教育・地元定着を柱に今年度活動をしてきました。あつという間の一年ではありましたが、皆様のPTA活動の活性化に繋がることを願いながら今年度の活動報告をいたします。

[活動報告]

講演会を開催しました

青森県立七戸高等学校 古館 至



10月29日に青森県総合社会教育センターの大研修室において青森県高等学校PTA連合会と青森県総合社会教育センターとの共催で「地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラム」・「青森県高等学校PTA連合会進路指導研修会」を開催しました。県内各高校から100名を超える保護者と教職員の参加を頂きました。

講演に先立ち、あおもりキャリア教育応援企業17社の表彰とトークセッション、パネルセッションが行われ、その後、北陸大学経済経営学部教授の藤岡慎二氏に講演していただきました。「地域連携を生かした主体的・対話的で深い学びをキャリア教育と高大接続・新大学入試改革に活かすには ～高校魅力化プロジェクトと社会に開かれた学び～」という演題で、キャリア教育には、本気で高校生と接してくれる大人が必要だというものでした。藤岡氏によると「『高校で学ぶこと』『大学で学ぶこと』『社会人として必要なこと』が繋がっていなかったことで、社会の変化に人材が追いついていない。高校と大学の学びを繋げて、高校で育む学力と大学で育む学力の共通言語（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性・協働性・多様性）を作ることで高校と大学の学びを繋げ、一貫性を持たせる改革が必要である。生徒が問題を発見し、他者・地域と対話し、原因を追求しながら課題を設定した上で解決策を考えれば、その後の解決策を行動に移していく時に地域との連携が必要となる。地域の大人達と議論をし、地域の課題に関わるには、本気で高校生と接してくれる大人が地域にすることが大切で、高校には、地域に開かれた学びと経験の場としての機能を持たせることが大切だ」ということでした。

講演終了後には東北6県の進路対策委員会の会議があり、各県の活動について報告が行われました。どの県でも、地域産業・行政と学校の連携推進フォーラムを開催し、行政・学校・地域・家庭の連携によるキャリア教育のさらなる充実に向けて、教育支援のあり方や若年層の県内定着、学校と地域の連携・協働による人材の育成に取り組んでいると感じました。



藤岡慎二氏の講演



会場の様子

東北地区高等学校PTA連合会 進路対策委員



委員長	中村 美津雄	(青森県高等学校PTA連合会会長)
副委員長	古館 至	(青森県立七戸高等学校)
副委員長	矢口 雅彦	(山形県立新庄北高等学校)
委員	菅原 正広	(宮城県築館高等学校)
委員	湊屋 啓二	(秋田県立秋田北鷹高等学校)
委員	吉田 真梨子	(岩手県立一関第二高等学校)
委員	戸井田 聡	(福島県立塙工業高等学校)

～～～各県の取り組みを紹介します～～～

地域との協働による学校教育

山形県立新庄北高等学校 矢口 雅彦



山形県には進路対策委員会という組織はありませんが、各校単位で地域や学校の特色を考慮したうえで、子ども達の進路希望達成に向けた活動が行われています。少子化問題に加え、人口の都市集中からくる人口減少・地元定着が大きな課題となっています。ただグローバル化、デジタル化など著しく変化の速い時代を迎え、場所を選ばない進路環境がますます発展していきます。広い視野を持ち自分に合った進路を選択できる、多岐にわたる情報を提供するお手伝いが必要だと強く感じています。

本校新庄北高校は、今年度から文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の研究指定を受けており、将来地域を牽引する力を持つ人材を育成するという目的のもと、自治体・企業・活動団体・地域住民と連携して活動に取り組んでいます。大切な子ども達の進路希望達成に向けて、地域全体で情報を共有し活動への理解を求めていきたいと強く感じました。

大学訪問や入試対策講話

宮城県立築館高等学校 菅原 正広



宮城県高等学校PTA連合会進路対策委員会では、大学を訪問し学部の説明や、入試対策の講話を聴いたり、東北地区高等学校PTA連合会での研修の内容を基に研修を実施し、また、県内各地区の進路対策の内容を情報発信するため、「進路だより」を年3回発行しています。

「進路対策」の方向性については、進学と就職とで各校の取り組み方に違いがあり、また、県内各地域、東北各県でも考え方は千差万別です。だからこそ、子ども達の将来のために、これからの社会情勢を見極め、進路決定のための情報や知識を身につけ、生徒、教員、保護者が連携し取り組むことが重要であると考えます。また、進路対策委員会で学んだことを、知識として身につけるだけでなく、行動に移し実践しなければ、意味がないと思います。

我々大人は、子ども達の手本です。身近にいる、両親や先生を見て育っていきます。子ども達に、将来なりたいと思う大人に、まずは自分がならなければならないと思い、これからもPTA活動に取り組んでいきたいと思っています。

保護者と大学との懇談会

秋田県立秋田北鷹高等学校 湊屋 啓二



秋田県進路対策委員会では、高校生の地元定着やよりよい進路選択ができるように次のような取り組みを行っています。

1つめは「知事及び秋田労働局長等による新規高卒者の求人確保等に関する要請活動」です。秋田県人口の社会減抑制を図るため、高校生の県内就職の拡大に向けて、知事、労働局長、教育長とともに保護者代表としてPTA連合会からも経済5団体の代表に対して採用枠の拡大と求人の早期提出並びに各高校への積極的な働きかけを行いました。

2つめは「秋田県内高校生の保護者と秋田大学との懇談会」です。地元の秋田大学との懇談会は保護者を対象としたものであり、授業参観や施設見学、大学概要説明、学部別説明会を行いました。大学の様子を目で確かめ、保護者の意見や思いを直接大学側に伝えることができたのは、こどもの進路を考える上でもよい機会となりました。このような大学との懇談会の場を県内の各大学にも設けていただくように県高P連として要望をしているところです。

この他にも「地区交流大会」「新規高卒者・中小企業等就職セミナー」「県教委との教育懇談会」などがあります。このような取り組みにより、人口減少に歯止めをかけ豊かな地域づくりを進めていきたいと思っています。

「岩手県の雇用政策」講演会

岩手県立一関第二高等学校 吉田 真梨子



岩手県高P連進路対策委員会では、昨年度の活動反省として「地元への定着」「離職率の問題」などを巡る状況を深く探求したかったという事があげられました。

このことから、今年度は活動の柱である講演会において「岩手県で働くということ」「岩手県で働く魅力」といった内容に触れる方向性で検討をし、子供の高校卒業後の進路が、就職であろうと進学であろうと、働く場としての岩手県の現状とその可能性について知ることが必要と考え、いわてで働く推進協議会事務局・西野文香氏をお招きし、「岩手県の雇用政策について」と題した講演会を開催しました。岩手県における人口減少と今後の推移、産業の現状、雇用情勢、雇用政策、岩手で暮らす魅力についてお話を頂き、県の取り組みを知る良い機会になったと思います。今後も様々な情報を発信する活動を継続していきたいと思っています。

進路講演会骨子をHP掲載

福島県立塙工業高等学校 戸井田 聡



福島県では今年度の進路対策の取り組みとして、生徒・保護者の進路意識の向上を図るために、会津支部主催で行われた進路講演会骨子をHPを通して全県に発信しました。ここから親子の対話を増やし、生徒が進路選択に向けて大切なこと、親が子供たちにできることは何か、働くことの大切さなど職業観などを考え話し合うことにより、適切な進路実現を達成して欲しいと考えています。

これからますます少子化が進み、若い世代の人材育成、支援は最重要課題であります。福島県を担う人材育成のために、保護者、学校、地域社会、行政が一体となって未来の光を育てていきたいと考えています。